

久留米市校区社会福祉協議会連合会の取組み

久留米市校区社会福祉協議会連合会は、市内46の校区社会福祉協議会(以下、校区社協)の会長等で構成しており、それぞれの会長が、校区の活動や課題、悩みなどを話し合い、お互いの事例やアイデアを共有しながら、よりよい活動につなげています。

今年度は「第2期くるめ支え合うプラン」の考え方を大切にしながら、それぞれの校区で「校区福祉活動計画」の策定・見直しの推進を重点目標に掲げており、学習会の企画などを行なっています。

7月に開催した交流学習会では、校区社協会長やふれあいの会など地域活動に携わる104名が参加し、「第2期くるめ支え合うプラン」と「校区福祉活動計画」についての学習と意見交換を実施しました。

また、校区社協の取組み周知と、地域貢献を目的として、8月に小頭町公園の清掃活動を実施しました。清掃活動を通して、環境美化と地域福祉につながることを実感できました。

校区社協連合会の取組みが、地域共生社会の実現につながるきっかけになればと思います。「やってみたい」「相談したい」「福祉活動に参加したい」ことがありましたら、お住まいの校区社協にご連絡ください。



校区同士の意見交換



メモも止まりません



頑張るぞ、校区社協連合会!!



清掃活動の様子

高良内校区支え合い推進会議



やってみたいことを発表!



「ながら見守り」の風景



「ながら見守り隊」チラシ

高良内校区では、地域に必要な支え合いは何かを考えるヒントになればと、「支え合うワークショップ」が開催されました。各方面に声をかけ、4名の小学生含む50名以上が参加! やってみたいことの声をヒントに、まず実現可能性が高いものから実際に取り組もうと協議を重ね、子どもたちの登下校を見守る「ながら見守りの復活」を実現されました。

取組みの目印となる腕章やタスキは既存の物資を有効活用。小学校も含む各種広報紙やチラシで取組みについて周知を行い、少しずつ、しかし、着実に見守りの輪を広げています。

また、子どもたちに高齢者世帯を見守ってもらってはどうかというアイデアも。「子どもたちとの関係が深い高良内校区だからできる、負担なく自然に校区全体が見守り合うという、新しい見守りの形を目指したい。子どもを支えるだけでなく、『支え合い』ですから」と話されます。

もっと子どもたちと交流し、取り組みたいことを叶えていきたいと考えておられる高良内校区では、またワークショップを開催したいと準備を進められています。



note
高良内校区の取組み